

千代田まちづくり

サポート通信

2004年1月発行

No.10

編集・発行 (財)千代田区街づくり推進公社 企画情報課

東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館2階
TEL.03-3262-0211 FAX.03-3262-0213

公社ホームページ <http://www.chiyoda-machidukuri.or.jp>

E-mail: kosha@chiyoda-machidukuri.or.jp



江戸開府400年
400th ANNIVERSARY OF THE EDO SHOGUNATE

花の銀行、地域通貨など夢いっぱいの構想

江戸開府400年記念支援事業 第5回「千代田まちづくりサポート」活動成果20団体発表



〔審査委員=敬称略〕

会長 北沢 猛

(東京大学助教授)

副会長 緒方 久子

(千代田区文化協会)

400年支援事業審査会)

平岩 千代子

(電通総研主任研究員)

委員 饗庭 伸

(NPOまちづくり情報センター)

かながわくアリスセンター)理事長)

小林 武彦

(番町出張所地区連合会町会)

400年支援事業審査会)

田畑 秀二

(江都天下祭研究会神田倶楽部代表)

鳥山 和茂

(岩本町東神田町会連合会)

400年支援事業審査会)

山崎 範子

(地域誌編集人)

山本 坦

(千代田区コミュニティ振興公社評議員)

渡辺 滋

(千代田区まちづくり推進部長)

発表模様

住み良いまちにするには、どのようにしたら良いかを探る市民活動に助成している「千代田まちづくりサポート」の5回目(江戸開府400年記念支援事業と共催)の活動成果発表会が2003年11月29日、千代田区中小企業センターで行われた。20団体のうち、15団体が初体験だったが、学校やPTAと共通認識を持ったり、名店会のパンフレットを作ったことから地域通貨構想も生まれるなど課題を見付けた団体が多かった。

「資金が続く限り花を植えたい」という2年目の活動に入った「花・風の会」は、イギリス、ベルギー大使館とガーデニング交流をしたり、花の銀行構想も出した。五感でまちを



修了証授与

楽しもうとイベントなどに参加した「子どもと一緒にデザインしよう会」は、まちづくりサポートの他のグループとも協働した。また、今回で修了した「江戸神田蕎麦の会」は、ビルの屋上で育てた蕎麦をそば屋さん秘伝の

蕎麦汁で食べて感動したうれしい報告もあった。この3団体に江戸開府400年記念賞が贈られた。(12ページ参照)

欠席した「秋葉屋ドットコム」の発表は、1月に開かれる次回の助成金を求める団体が行う公開審査会であることを決めた。

発表団体目次 (カッコ内はページ)

〔発表順〕

- ◎千代田区子ども110番連絡会 (2)
- ◎旧五十通り復興会 (2)
- ◎東京を自転車でする会 (2)
- ◎神田スタイル研究会 (3)
- ◎さぼてん (3)
- ◎神田アキナイ会 (3)
- ◎岩本町1丁目街づくりネットワーク (4)
- ◎神田神保町本やの会 (4)
- ◎上智大学環境サークルANGELS(アングルス) (4)

- ◎東デ コラボレーションチーム (5)
- ◎共同建替えと地域を考える会 (5)
- ◎市井人・斎藤月孝に学ぶ会 (5)
- ◎コマンドN (6)
- ◎コミュニティデザイン協議会 (6)
- ◎ACIプロジェクト (6)
- ◎NPO学習環境デザイン工房 (7)
- ◎秋葉屋ドットコム (7)
- ◎花・風の会 (7)

- ◎子どもと一緒にデザインしよう会 (8)
- ◎江戸神田蕎麦の会 (8)
- ◎千代田活性化アート活動研究会 (8)
- 〔審査委員総評・講評〕 (9~11)
- 〔千代田まちづくりサポーターズクラブ概要〕 (12)
- 〔賛助会員一覧〕 (12)

ITネットで子どもの安全を守る

千代田区こども110番連絡会【1回目】

初年度の活動の自己評価は80点。1つは区内の私立小学校に活動を広げようとしたが、内部の事情でできず、また子ども110番の家とのネットワーク化も日程がずれ込み、



できなかった。

成果としては、まず区立小学校8校から成るメンバーで、7回のIT環境整備のための会議を開催。区立小学校のIT環境の実態と学校のHPとの関連を認識し、今後の課題を確認した。また各学校長、教頭先生へHPのデモ版で活動のプロジェクトを紹介した。

さらに千代田区こども110番連絡会の各校のドメイン取得、区の教育委員会のプロジェクト会議に出席し、学校とPTAの相互理解や共通認識ができた。

連絡会のHPの内容を最終的に確定して、開設に向けた講習会を区の教育研究所で2

度実施、40人の参加があった。

この活動を将来にわたって維持、展開していくには仕組みづくりの議論が大切。区内の地域別環境の違いを知り、互いに補完しながら活動できたことが大きな力になった。他の団体との連携は「NPO学習環境デザイン工房」と「コミュニティデザイン協議会」と協働できた。

Q：PTAと一緒に何かできたか？

A：子ども110番の家が2400軒あり、最低、年に1回は担当者が回し、顔の見えるネットワークができた。

Q：今後の課題は何か？

A：IT化の功罪を理解してもらうこと。その便利さと危うさを伝える。事例集などで講習会を開き、内部的には倫理規定や利用規約などを作りたい。

商店の結束ねらいマップづくり

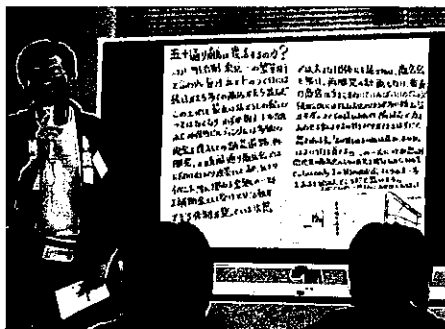
旧五十通り復興会【1回目】

千代田区には大きなビルが建ち、再開発のイベントも多い。でも再開発や商店会に属さない小さな商店は自前でやるしかない。千代田区の8割以上は小さな店で、暗中模索をしている。

個人商店が集まって、江戸、明治のころは東京一の繁華街と言われていたのに昔日の賑わいがなくなり、商店会すらない。そこで、まず商店会の結成をして、昔ながらのまちを復活させる。

隣同士の、商店同士のコミュニケーションをとれば、まちはきれいになり、活性化する。通りに面した小さな商店街に何ができるか考えた。

きっかけづくりとして各商店に声をかけ、名店会のパンフレットを作成した。さぼてんの三原さんのおかげ。今後、地域通貨の試みなども考えている。狭い範囲のなかで、様々



な実験が可能だと考える。多くの人が参加してくれる会をなんとかつくりたいと思う。

Q：名店会の集まりでは、どういう話をしたのか？

A：最初は、旧五十通りで、どういう活動をしようかという話が出て、イベントをやろうかとか、焼きとりセールや割引券などの案が出たが、助成金を活かすには、形になる物を残したかったので、パンフレット作りにした。

Q：パンフに広告は載せたか？

A：今回は無料で載せますと、一軒一軒まわったが、不景気で会費も出せない人が多く、なかなか大変だった。

Q：お店の歴史や、創業年などは？

A：簡単に書いてある。

Q：難しい点は、どんなことだったか？

A：町会と商店会との関係。別の町会の人は勝手なことするなといわれた。

ポタリングでわかった低速交通システムの必要性

東京を自転車で走る会【1回目】

自転車でまちを楽しもうと毎月1回、住民や自転車での都市観光に関心のある方と交流し、モデルコースを検証した。

10月19日に「江戸ポタリング」、つまり自転車で散歩する催しをした。サイクリングを楽しみ、会が提案するサイクリングマップを試してもらう企画。参加52人が3コースでポタリングした。

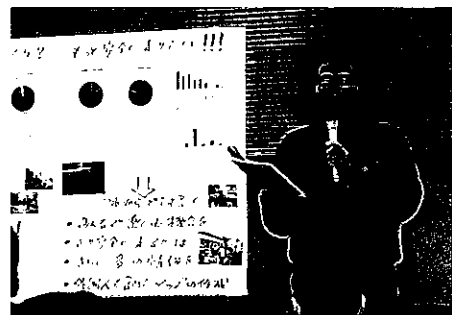
Aコースは街角にある彫刻・アート50点を鑑賞して回る。Bコースは建物で見る時代の移り変わり、千代田区の変化を街並みから体感。Cコースは並木道や裏通りなど、山あり谷ありのサイクリングを満喫。皇居を中心に千代田区を2周した。

その結果、あまり自転車に乗っていない人も楽しめることが分かり、参加者から指摘も受けて、コースに客観性が持て、自転車を使うことの意義を再発見した。

走りやすく安全な自転車走行帯の設置や低速交通システムなど、まちづくりにも必要な提案をしていきたい。課題として、来年度はさらに、参加した外国人からのアドバイスもあり、在日、観光中の外国人用マップ制作や、自転車活用観光のPRも進めていきたい。

Q：安全面や高齢者も含めた参加者の体力面を、今後どうフォローするか？

A：平らな所をゆっくり走るコースも考えているので、だれでも参加できる。



Q：自転車専用道路の提案をするのか？

A：お金をかけない自転車走行帯を考えている。歩道では通行者とぶつかる恐れがあるので車道に造ることを提案する。

Q：各コースでアートや建物を楽しむ時の駐輪場所は？

A：休日に実施したこととA、Bコースの人数も多くはなかったため、比較的駐輪場所には困らなかった。

貴重な職人の手仕事、ネットワーク化も

神田スタイル研究会【1回目】

神田を「一日巡り歩いて楽しめる町」にするための基礎情報の整理と公開が、会の目的。

特に「職」と「商」に分類し、先ず「商」としては神田の伝統と歴史に触れるマップを作った。

実際にまちを歩き、老舗を訪ねてみて、老舗とは建物が古いのではなく、お店の外観では分かりにくいことを実感した。

お店や事務所を地図に書き込むのに、電話帳やタウンページにも載っていない職人がいっぱいいることも分かった。取材ができず残念だったが、神田須田町の洋服屋さんの協力を得た。地域に生地屋、テーラー、生



地の加工屋、ボタン屋、ネーム屋などがあり、エリアのなかで関連商売が成り立っていることを知った。

また、外神田の緒方計器製作所の社長さ

んと技術者の斉藤さんにお話を伺った。先代からガラス計器類を製作し、日本酒の糖度測定器では、日本でも数少ないメーカー。だが後継者がいないとのことだった。

千代田区のまちづくりを考えていく上で、職人の技術、手仕事はまちの重要なソフトなインフラではないか。まちを活性化させるのはIT産業だけではない。職人の手仕事も神田の貴重な資産だ。

Q：すばらしい。なぜ今に生き残ったのか、小さな商店に話を伺ってほしい。

A：伺っている。ネットワークも考えている。

Q：他の団体との交流はあったか？

A：サポートグループ「神田市場研究会」や、サポートに応募した「まつりと自治研究会」と協働させていただいた。

まちの活性化につながる活動支援

さぽてん【1回目】

サポート事業にかかわる方々の情報交流のプラットフォームを提供することが1つ。もう一つは、このサポート事業全体を支援していくと「サポーターズクラブ」を発足。きょうの成果発表会でも受付、司会、タイムキーパーなどの支援活動を行い、終了後の交流会を主催する。まだ知名度が低いので、「さぽてん」というプロジェクトチームをつくった。

月1回、第2金曜日午後7時から2時間、定例会を開いている。

前回の中間発表会前に、ウォークショップ（歩いてめぐる活動現場）を開催し、そのまま発表会に出席し、交流会に参加していただけたよ

う計画した。ウォークショップでは2時間ほど歩いて活動団体をめぐり、15分ほど活動の説明を聞いた。

2回目は、飯田橋周辺を歩き、現場を訪問した団体は「外濠遊縁研究会」「花咲かいさん」「ACIプロジェクト」「花・風の会」「飯田橋地域の開発を考える会」の5団体。

ウォークショップ後は、意見交換会や交流会を行った。トークセッションをとの声もあったが、交流を主眼とした。その説明や意見交換会の報告書を作成した。HPにも載せる予定なので、ぜひご覧ください。

Q：私も参加して、活動の現場を見ることが、



いかに大事が実感した。まちづくりの活性化にもつながる。一度ご参加をお勧めする。

Q：公社や区役所の職員にもぜひ声をかけてください。

A：現場の説明は15分なので好評です。

Q：この立派な報告書は、どこで配っているのか？

A：今日、この会場で。次回のさぽてん参加の人にも配付する。

柔らかな「なかみ」があった東神田のまち

神田アキナイ会【1回目】

私たちの問題意識として、1つはまちの情報は2次元で、3次元の情報は盛り込まれていない。神田では多様な用途の建物が混在しているので、そういう資料では神田の特徴は分からないと感じた。



もう1つは2003年問題。ビルに空きが多いが、その議論をするときに、スペースの空きにも地域特有の性格があるのではないかと考えた。そこで神田地区の空きを探して、何か特徴的なものを見だし、神田らしい解決策を見つけようとサポートに申請した。

神田地区全体では難しいので、地域を東神田に絞った。そこで外と中の両方から特徴などを調べ3つの発見があった。まず「なかみ」（古い業種）としての歴史を振り返りながら、現在の東神田がどうなっているかを見る。

また、地元の人の話を聞くことで、書類や地図には見えない、まちづくりのヒントが隠されている。

「そとみ」（建物）としては、まちを歩いて見つけた階高のビルは用途を転換するのに便利。一見無表情なまちの「なかみ」の柔らかな感覚を発見した。

Q：今後どうするかという議論は？

A：地元の方々に「なかみ」のお話を多く伺えるよう取り組んでいきたい。

Q：お願いとして、成果発表された資産性について、自分たちの思いと地域の思いをどれだけ合わせられるか、共有できるかが大事なのでネットワークをつなげてほしい。

Q：今後の成果物は何を目指すのか？

A：予定していた「なかみ」のことをもっとやりたいと考えている。

Q：鳥山さんのグループともリンクしてやってはどうでしょう。

A：アドバイスを参考にします。

行政、議会、ゼネコンとも一体で環境改善

岩本町1丁目街づくりネットワーク【1回目】

前代表の中島祥介氏が岩本町1丁目町会長に就任。我々が作った「岩本町1丁目ワンルームマンションガイドライン」が町会に承認された。それを行政にフィードバックし、町会と締結した覚書集を冊子に入れた。覚書は年間8本。ゼネコン、デベロッパー8社以上と覚書を締結した。

また町内の地藏橋東児童公園は半ばゴミ置場になっていたが、我々とマンションデベロッパー、ゼネコンとで行政に働きかけ、千代田清掃事務所と連携で公園周辺をゴミの個別収集地区に切り替え、公園からゴミを一掃した。

それに伴い、生活環境条例のモデル地域に指定された。合わせて地藏橋東児童公園の整備計画を行っている。これは東京電機



大学の西山康雄教授とコラボレートして、こういう公園がよいか、提案していただき、それを町会に投げかける。

道路公園課、区議会、ゼネコン、町会、大学とネットワークが生まれ広範囲の意見を集約

している。一方、千代田区のアダプト制度を適用して活動したい。

Q：今後の課題は何か？

A：地元からの疑問にどう応え、意見調整や情報公開をいかにするかだ。

Q：困難な広範囲のネットワークは、なぜできたのか？主催者は？

A：主催者は私だが、電話や直接会いに行ったり、お招き頂いたりした。

Q：ワンルームマンションは住む人の顔が見えないと言われる。新しく入った人との関係づくりは？

A：ゼネコンを通じてマンションの住民ともコンタクトを取り、排除するのではなく、公園設計やまちづくりに参加していただくようにした。区の広報板をマンションのなかに作ってもらい、祭りやコミュニティの知らせも管理会社に配ってもらう。イベントや緑化活動をしながら交流を深める提案会を3回開いている。

写真も取り込んだ路地裏マップ制作

神田神保町本やの会【1回目】

ここに地図を持って来たかったが、間に合わなかった。年内に仕上げる。

私たちの会は、神保町の魅力を、この町に来てくださる方にアピールするのが目的。神保町に働く私たちが生活者の視点で通りを見たときに、どこがおもしろいか、路地裏マップを作ることにした。何ができるかということで、月に1回集まり話し合いもした。でも、実現できそうにないことまでやりたいと話しているうちに時間がたってしまった。

とにかく地図を作らなくてはと動きだして、原稿がそろったのは11月20日過ぎで、恥ずかしい状況になった。計画性がなかったと

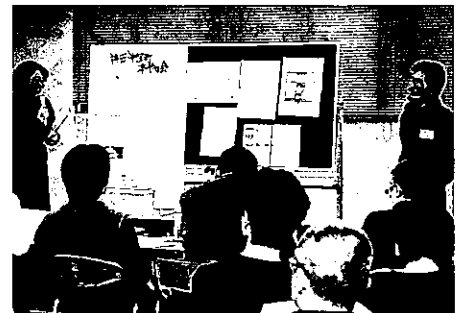
反省している。

内部の事情だが、相変わらず私たちも大変経済的に厳しい状況で、集会も2カ月に1回となり、予定が大幅に遅れた。アイデアは出ても実現できず悩んでばかりいた。

神保町の再開発が完成しつつあり、変貌する町の様子をフォローするのに手間だった。新しい仲間も加わり、その悩みを聞いたり、町を見つめ、会員の交流を深めることができた。

Q：気になるスポットに写真を入れるというアイデアはいい。

A：古い建物なども写真を撮り、絵にし



て入れることも考えている。まずは町に来てくれる方を対象にする。

Q：新しい地図を作る上で、働いている人の、本屋の町の変貌への思いなども、ぜひ記録しておいて欲しい。

A：私たちも新しい神保町へのとまどいがあるので記録したいと思います。

マイバッグの普及に努めてゴミ減量！

上智大学環境サークルANGLEs【1回目】

4月ごろから、麹町通り商店街の方と「マイバッグ NOレジ袋キャンペーン」実行委員会をつくり、夏には地域通貨「^{まち}麹」(1^{まち}=2円)を発行した。それを契機に地域の環境団体を交えた三位一体で、環境に配慮したまちづくりの活動を開始。新聞などにも取り上げられた。

しかし、地元での知名度はまだ低く、今後は作成したエコマップを活かして一層普及に努めたい。また、コウジ・マンと名付けたキャラクターを作った。

地元暮らし人との交流やボランティア



グループとのつながりが生まれ、新しい人間関係がつくれた。

Q：町会との関係はどうか？

A：町会というより、地域の環境団体「KESS」と地元の商店街との合意で加わった。

交渉などは商店会の副会長さん(KESSのメンバー)がしてくれている。

Q：これからの広がり、展開は？

A：個々の人への知名度が低いので、それを高めるためにもマイバッグやキャラクターを広めたい。

1年間の取り組みは始めの一步で、調査研究が手薄だった。また学生としても長期的に考え、それらを重点的にやりたいと思っている。

Q：他の学生への広がりはないのか？

A：上智の学生寮の人たちへ、八百屋さんなどを通して広めている。

老若のファッションショー開き、互いに吸収

東デ コラボレーションチーム【1回目】

高齢者とファッションとデザインというコンセプトで活動してきた。若い人と高齢者の交流で、ファッションの可能性と高齢者のモチベーションの向上を目指す。

高齢者センターのお楽しみ会に参加して、似顔絵ブースを開いたり、ファッションショーを開き、高齢者と若い人の互いのいいところを吸収するという試み。東京新聞に掲載された。

この活動を始めて、私は度胸がついたが、学校の卒業制作の時期になったこともあって、グループのメンバーが私一人になってしまった。でも、留年を申し出て、許可をいただいたので、来年も頑張りたいと思う。



いま、高齢者向けのファッションの小冊子を2月までには完成させたいと思っている。いくつかそのための取材を申し込んで回ってみた。

Q：高齢者とファッションというのは、重要

なテーマ。でも、この活動は、やはり仲間と一緒にやることに良さがあると思う。すぐに成果を出すことよりも、どうしたらこの活動を、またみんなで楽しめるかをもう一度考え直すことはできないか。

Q：まずまちづくり活動としての意味、原点をもう一度考えて、自分はどういうメンバーと何をしたいのか、次の公開審査会のときに、もう一度練り直した企画書を持ってきてください。

Q：このサポート活動は企画を出してもやってみてダメなこともある。その時に仲間がいるということが大事。サポーターズクラブの皆さんもいるし、

相談して、みんなと楽しんでやってください。がんばって。

A：はい。

利益追求の壁厚かった地域コミュニティ再生案

共同建替えと地域を考える会【1回目】

昨年度から神田須田町2丁目に建設されている共同建て替えマンションに共有のスペースを設け、地域に開放して、新しい住人が地域に溶け込めるように、屋上とコミュニティールームの活用を提案。

まず、神田地域のマンションの住人と町会代表に分譲マンションの共同部分の使われ方や地域のかかわりについて調査。その結果、住人同士の交流や共同部分の活用はなかった。

また新しいマンションの住人は、とまどいや遠慮から地域に馴染んでいないことが分かった。その調査結果や地権者から直接聞いた意見をもとに、屋上とコミュニティールームの利用案を作成。案のコンセプトに祭り、

学び、会議、趣味、憩いなどを想定し、設計者やデベロッパーに提案した。それをパネルにして、モデルルームに展示している。

来場された方々が関心をもって見ていた。しかし、販売会社は分譲し、収益を得なければならないので、住人同士の交流は二の次になってしまう。共有スペースの提案などは残念ながら理解されなかった。

地域のコミュニティ再生には行政の具体的な支援も必要と感じた。

今後、活動で明らかになったことや改善すべき点をまとめ、住人中心の住まいやまちづくりに反映していきたい。

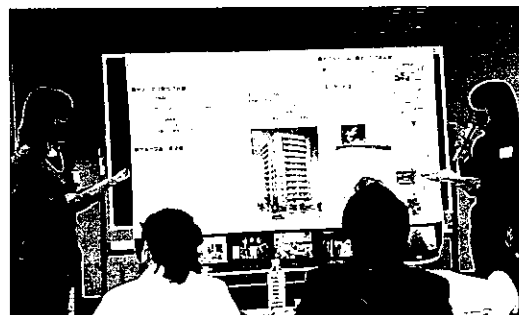
私たちは後輩にこの活動を引き継いでもらう態勢を整え、今後も地域の方にも提案していきたい。

Q：会の提案に対して、地権者の人たちはどう反応したか？

A：コミュニティールームの価格金額を要求されてしまった。

Q：コミュニティールームの広さは？

A：70平方メートル。



町会の全面支援で斎藤月峯顕彰碑建立へ

まちびと げっしん 市井人・斎藤月峯に学ぶ会【1回目】

2004年は月峯生誕200年にあたるので顕彰碑を建てるという目的を発表した。その来年に向けて努力している。それに関連して、月峯ゆかりの神田雉子町の近く、司町2丁目町会の全面的な後援を受けられることが決

まり、顕彰碑建設準備委員会を発足した。

そこで月峯紹介の小冊子「市井人・斎藤月峯」を作り配布する。11月8日には講演会「斎藤月峯を知っていますか？」（講師・加藤貴早稲田大学講師）を開催。江戸時代の名主の役割や月峯の人柄などがわかった。

最後に残る活動は月峯の著作「類集撰要・全50巻」の翻刻。前回の1巻に続き6巻を仕上げた。出版に向けて試行版「類集撰要一」（類集撰要1～6巻収録）を作成する。

また、国会図書館にあった関連資料のコピーや、江戸東京博物館の月峯自筆の安政2年（1855年）の地震記録「安

政見聞誌」をデジタルカメラで撮影した。

今後、HPの作成やオープンな月峯文庫開設に向けて他団体とも交流を図り、地域のためにも努力していきたい。

Q：成果がどんどん出てきて楽しみだが、顕彰碑建設の費用は？大きさは？

A：できるだけ努力はして、集まった金額で柱1本でもいいから建てようと考えている。江戸っ子の意地で自腹を切ることもあるかと思う。

Q：CD・ROM完成の予定は？

A：翻刻する古文書がまだ大量にあるので、おいおいやっていく。

Q：地域の中学校でも学ぶ内容で、先生にもアピールできるので、学校でも使えるものを作ってほしいと思う。

A：それは肝心なことと考えている。小冊子は図書館にも置いている。



秋葉原TV展ドキュメント映像とDVD制作

コマンドN【1回目】

過去3年に3回開催した国際シネビデオインストール展「秋葉原TV」という展覧会の集大成として、ドキュメントDVDを制作した。昨日、完成記念試写会と交流パーティーを開いた。

1つは参加アーティスト、スタッフ、後援・協力団体と店舗、都市計画家や街づくりの専門家へのヒアリングをベースに、「秋葉原TV 03」に参加した新地洋介監督がビデオ作品化したもの。

2つ目は、全3回のプロジェクトの制作プロセスの映像や資料テキストを1本に集約したもの。

内容は、「秋葉原TV」にボランティアとして



参加した武蔵野美術大学映像学科の学生が秋葉原に毎日訪れ、「秋葉原TV」というビジュアル展覧会制作の現場に足を運ぶことによって、アートとは何か、まちとは何かと考えて行く様子を、私小説的に、ドキュメンタリータッチ

で仕上げたもの。

特別な誇張もなく淡々とまちと自分のかかわりを素直に表現している映像。技術的な部分を自分たちでクリアし、プロレベルにできたが、

問題としては、全国に発売するための資金、制作費のコストが壁で現在進行形。

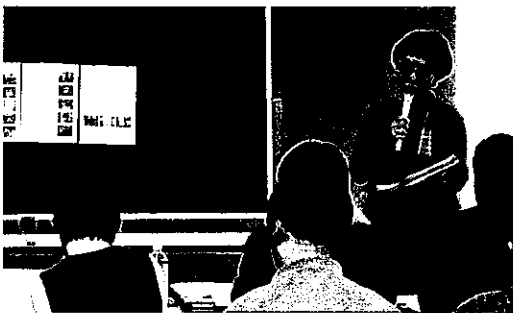
まちづくりという点では、具体的にアートと社会の結びつきを生み出して、美術界を軸にまちづくりの新しい手法を見いだすことができた。秋葉原の文化的魅力を世界に発信し、一般市民へ広く、長くメッセージを伝えることができ、集客効果の可能性を切り開いたこと。

Q：アートとまちづくりに何が必要か？

A：何より作家の自主性が大事で、それに対してサポートする立場、社会にそれを伝える方法が必要。その意味で感謝している。

CDにした学校の音を契機に地域の感心高まる

コミュニティデザイン協議会【1回目】



コミュニティの健全な発展のための啓発・普及に寄与することを目的とした会。実際に2回のワークショップを麹町小学校の図工室で開いた。1回目は子どもたちが自分で学校内の音を集め、1週間後に小学校周

辺の音を集めて、まちの声やインタビューを録音。

具体的な成果物としては、ドキュメントビデオ、報告書、子どもたちが作ったサウンドデバイス、サウンドデータベースなど。

またプロジェクトが掲載されたのは、麹町小学校PTA広報部編集の「麹町」にく土曜日を楽しく過ごす>という見出しで紹介された。東京芸術大学先端芸術表現科編「先端芸術宣言!」(岩波書店)にも取り上げられた。

子どもたちが自分で集めた音を持って帰りたいというので、CDにして配った。自分たちが通っている学校周辺のことに興味を持ち、

地域への関心を示すことになれば、将来、地域の活動へ積極的に参加していくと思う。

Q：仙台と千代田でやって、違いは？

A：千代田は住人が少ない。土日は特に。その中で子どもと地域の交流ができた。

Q：おとなのPTAの反応は？

A：ワークショップを見学され、積極的に協力してくれた。

Q：会計はかなり赤字のようだが、どうするのか？

A：会費と他からの収益で補う。

Q：次はどういう展開を考えるのか？教育のプログラムとしてはよいが、地域へはどう還元するのか？

A：地道にやるしかないので、地域のいろんな音を集めることで活動を広げ、それをインターネットでも聞けるようにしたいと思っている。

マップを作り地域活動に参加して深い交流

ACIプロジェクト【1回目】

私たちのコンセプトは「飯田橋地域を利用する人同士の交流を深める」こと。今年は、地域活性化の必要性を訴え、住民参加型の情報発信として、MAP発行とHPの作成などを行ってきた。

MAPは、「Cafe・MAP in イイタバン」を作り、ご協力いただいたお店の期限付きクーポンを載せた。作成のための地域調査、アンケート、商店街との意見交換会をした。

地域のイベント「千両まつり」では、MAPを配布したり、フリーマーケットを出し、大盛況だった。飯田橋クリーンアップ活動にも参加して地域の人たちと身近に触れる機会が持てた。

さらにHPを開設するなど、勉強会や交流会を開き、他の団体や商店街との関係も生まれた。また新入生に対するレクチャーも行い、活動を継続してもらおうと思っている。

サポートグループの「子どもと一緒にデザインしよう会」とも協働できた。

Q：継続的に活動するための準備は？

A：新入生のレクチャーの他に、メンバー募集も学内でしている。

Q：できなかった住民との交流会や勉強会は具体的に計画しているか？

A：共同イベントの実施と共にやる予定。交流ができた商店街の方の

意見を参考に今後に活かしたいと思っている。

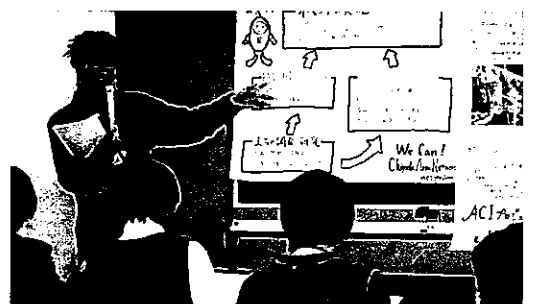
Q：飯田橋は、これからさらに開発されるので、一層盛り上げてほしい。サポートするので公社にも相談してほしい。

Q：地域の祭りに参加して、何か変わったか？

A：飯田橋は都会だと思っていたが、住民の方に田舎の温もりを感じた。

Q：みなさんでしかできないことは何か、オリジナルなものを見つけてほしい。

A：はい。



昔のくらしをHPで公開、CDを小学校に贈る

NPO学習環境デザイン工房【2回目】

高齢者を対象にIT講習会を継続的に行う。昔遊びや道具、場所などを紹介してHPを作成、公開し、CD-ROMにして区内の小学校に無料配布した。社会科授業の中で活用される。

講習会参加者有志で「昔のくらしホームページ」を拡充してもらい、子どもたちと質疑応答する。

後期も9月から、パソコン教室を3回開催。高齢者16人が参加、会場は神田さくら館のパソコンルーム、13時から16時、HP制作の基礎を学ぶ。1回目は似顔絵作成ソフトを組み合わせ、楽しく簡単な自己紹介ページを作る。

2回目は、四番町歴史民俗資料館から借りた昔の道具の写真を題材に昔のくらしを紹

介したページをつくる。難しいという声に応え、3回目はマニュアルを見ながら参加者が自分で作成する。

さらに、希望者5人が11月にも講習会を開き、HPの内容を追加。「遊び」に関する、メンバー独自の思い出をホームページ化する。百科事典との差別化を図るために、道具の説明だけでなく、書き手の道具に対する思い出などを入れた。

今後は番町小学校と麹町小学校とで授業に取り入れて下さることが決定した。

Q：もっと子どもと学校、高齢者のつながりが深まると、画期的になるという気がする。ITではなく、高齢者が直接子どもたちと交流



するプログラムを。

A：高齢者の自分史を話すと書くとかも考えたが、戦争体験などが多く難しく、道具の思い出にした。

Q：千代田の昔のくらしを発掘したりする高齢者の参加は？IT講習会に力点を置くが、それは手段にすぎない。ソフトが物足りない。コンテンツに重点を置かないと特徴が見えにくくなる。

A：アドバイスを参考に頑張りたい。

機器の資源リサイクルを取り入れたグッズ制作

秋葉屋ドットコム【2回目】

【メンバーが海外出張などで全員欠席となった。活動成果発表会資料の要約を示す】

私たちのグループは、美術的な立場から街を考え、活動してきた。

社会人として、また学生の立場（若者、つまりまちに根付いてもらいたい年代）から、今の秋葉原の活性化にお役に立てればと秋葉原グッズ制作を進めた。

グッズをまちから発信することで、電気街の客層の拡大など、学生たちの評価も聞きながら、電気機器の資材のリサイクルも取り入れた制作に励んだ。あらゆる部品から各

種奇抜なアイデアが生まれ、企画展も開き、多くの方に見て戴くことが出来、新聞テレビでの紹介もあり、多少なりとも貢献できたと思う。

その後、量産できる方向へ持って行くべく、学生たちの制作した参考商品を次のステップへと広げてきた。

いまだ最終的な商品としての位置づけを出せないまま、今回の日程は終わりました。結果を出すことの大変さを感じ、努力をして、NPOとして出来る限りのことをしたと思っている。

今後とも街とのかかわり合いを持ちながら、今回果たせなかった商品化への道筋を考えて行きたいと思っている。

【北沢】5年間で初めてのケース。非常に困っている。助成を受けてきちんと活動し、最終成果を発表するのがサポート事業の要綱で、約束だから、グループ全員が欠席というのは、たとえ仕事であっても、メンバーで調整して参加してもらわないと困る。

また、資料のレポートを見る限り、これでは活動目的は達成されているか分からないので、次回の公開審査会の時に改めて報告をしていただくことにします。

ガーデニング交流でやさしい町づくり

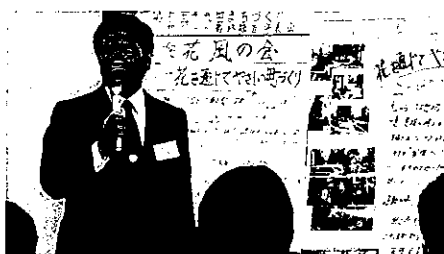
花・風の会【2回目】

私たちの会は地域に少しでもホッと一息つける、息抜きの場を手作りする会。公園の内外清掃も行い、会員は15人以上いるが、通常は7～8人で作業している。

千代田区内の土地で許可さえ下りれば資金の続く限り、どこにでも花を植えたいと願っている。

活動の場は①飯田町町会ポケットパーク、②飯田町町会事務所横、③俣橋児童公園（九段北）、④堀留児童公園、⑤飯田橋商店街の一部植栽、⑥富士見児童館など。

かわいいボーイスカウトの少年がお母さんと一緒に手伝いに来てくれたり、花は夢と



希望を運んでくれる。狭い場所でも喜んでやっているが、ポケットパークは都道の拡張工事のため、現在休眠中で、来年は存続できるか微妙。

素人集団の私たちは、花作りについて多くの皆さんに教えていただき、ご協力ありが

うございました。今後も、花の好きな区民と行政と一体になり、花の銀行を作り、花菖蒲をいっぱいにしたい。

また、来年4月には、区の桜祭り（清水谷公園）でイギリス、ベルギー両大使館の人たちに花のガーデニング交流を申し込んだ。区の国際平和・男女平等人権課から申し込んでくれれば大使館挙げて応援したいと賛成してくれた。

Q：花いっぱい大賛成。どんどん大使館とも子どもたちともやってください。

Q：こういう活動は長く続けてほしいと思う。来年はもちろん、その先々、ずっと考えてほしい。

A：大丈夫。花の球根を生かし、球根パンクやネットワークを広げて、続けていく予定。

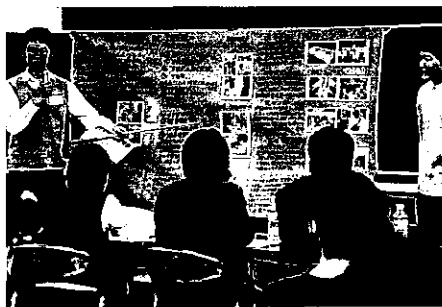
地域イベントに参加して、まちの楽しさ知る

子どもと一緒にデザインしよう会【2回目】

日本大学の学生と区内の高校生の団体。子どもにかかわる環境デザインを研究し、子どもと共に創造することで、まちの楽しさを分かち合い、まちの一員としての意識を育むことを目的とする。そして子どもたちがこんなおもしろいまちにずっと住みたいと思うようなまちづくり活動をしていきたいと思う。

毎週1回定例会を持ち、児童館や小学校、お祭りなどで活動している。私たち自身も楽しむことをモットーにして。

去年は「僕たち、友だち、まちたち」というワークショップを開催。五感でまちを感じる、をキーワードにまちへ出た。そして「まち育



て学習・発表会」で、各自のテーマでまちを調査し、これからのまちを提案し、地域の人に発表した。

今年は、「学校探検・学校づくりワークショップ」「遊び場・遊具づくり」「そばの花コン

テスト」「水アート」「WWW.Kodomo」「廃材工作」「一番町児童館祭り」「まちコンテスト」など、町会や「江戸神田蕎麦の会」「花咲かじいさん」の方とも協働して、地域のイベントや祭りにも参加し、みんなで作り上げる喜びを体験した。

今後子どもたちと共に試行錯誤しながら、「居場所づくり・共同体意識・自己形成」の3つの視点で、継続した活動をしていきたいと考えている。

Q：楽しいことだけではなく、まちの問題を学ばせていくことも大事。他の団体とも広く交流しているのはすばらしい。

Q：毎回充実して驚きます。子どもたちの創造性を引き出す教育のプログラムになっている。それを学校や地域の人たちでもできると、さらにいい。

A：これからも頑張っていきます。

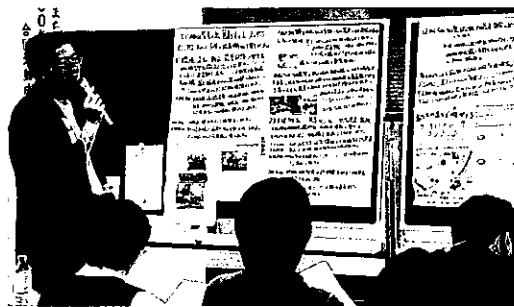
ビル屋上で育てた蕎麦でコミュニケーション

江戸神田蕎麦の会【3回目】

蕎麦を接着剤として、人と人、人と街、街と街、おとなと子ども、在勤者と在住者、分け隔てなく、いろんなことをやろうと挑戦してきた。

7月13日、屋上農園どころか、リナックスビルの屋上に蕎麦畑を出現させた。子どもたちと、リナックス・ビルのテナントさん、地域の多くの人たちと蕎麦の花見をして、神田産の蕎麦粉で蕎麦を打って食べたのは、一生の思い出になった。

(株)日産緑化の人に教わって、子どもと一緒に間引きなどやりながら育てた。8月には白い蕎麦の花が満開になり、お花見。HPにも載せた。本来、蜂がいないと受粉しないので実を結ばないと心配したが、ビルの屋上に蜂



がわんさか集まり、びっくり。長袖長ズボンで子どもたちと見に行った。

10月25日に刈り取り。できた蕎麦粉で蕎麦を打ち、区内の12軒の蕎麦屋の秘伝の蕎麦汁で食べた。これらの感動で、大きな感謝と

コミュニケーションが生まれたと思う。

蕎麦カルチャー、出前講座もいろんなところに招かれて、江戸ソバリエと名前を変えて広がった。「子どもと一緒にデザインしよう会」や「さぼてん」の協力で、子どもたちの蕎麦

の絵コンテストにも 300枚以上が集まり、会員も急速に増え、今後も続けていけそう。

Q：最初のことを思うと、よくぞ蕎麦もここまで育ったと思う。今後は？

A：千代田区の屋上緑化とソバリエを、NPOとボランティアの協働でやり、行政への提案もしていきたい。

Q：蕎麦のまちの再活性化を掲げてスタートし、2、3年目で大化けした。アートの人たちと苦勞したり、最後は行政への提案というところまで結び付けた。みなさんも力づけられると思います。

A：3年間ありがとうございました。

アートを媒体に街の活性化をはかる

千代田活性化アート活動研究会【第4回助成団体】

第4回の助成金を繰越し、今回も活動していた。岩本町の方々と連携で「岩本町とんやあーと」1と2を実現した。私たちは助成金だけに頼らない活動を目指し、ファミリーバザール実行委員会と協力してやった。

今回は現在開催中の2について発表する。商店街のバザール実行委員会との折衝で相違する思いもあり、結局、バナー(横断幕)とチラシの製作に。チラシは地味な活動だが、毎回統一してアートで街のイメージを徐々に作る。バナーも通りの入口と出口に1枚ずつ張った。好評で次回も使いたいという要望がある。

今後の展望は、「アート・オブ・ザ・岩本町(仮

称)」として、チラシ製作を続け、岩本町の色をアートで作り、さらにオブジェ、サイン、袖看板や幟(のぼり)など、アートを切り口にした環境づくりを街の方と検討していく。

また、バザール会期中に「エンターテインメントとしてのアート」で、娯楽性のあるアート、大道芸、アート縁日など「祭り」を盛り上げる手法を検討していきたい。環境づくりの発展には専門家の助言が必須になると思う。

Q：商店街は商売であるし、みなさんの活動はじんわり浸透させる仕事。今後はどう折り合うのか？

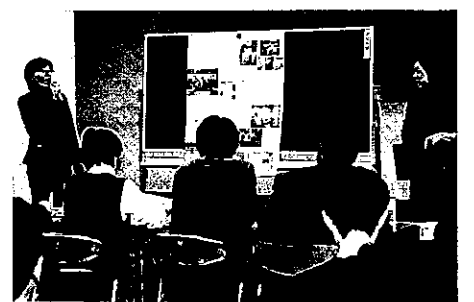
A：アートとしては街に形として残して

いきたい。通りの照明なども考えたが資金的に無理でした。バザールは祭りの要素でエンターテインメントなアートを考えて、2本立てでやっていきたい。

Q：今後も続けるための妙案は？

A：企業の照明などを地元へ提案する。

Q：アートとは、トライして失敗しながらおもしろくなるのではないかな。今後もぜひ千代田区のエリアで続けてほしい。



目的を明確にして、優れたノウハウをさらに磨いて

北沢 猛・審査委員長(東京大学助教授)



江戸開府400年にふさわしい発表会でした。それだけの内容があったと思います。たぶんこの1年間のみなさんの活動の総量を足し合わせると、膨大なエネルギーになっているはず。企業や行政がこれだけのことをやろうとすれば、恐らく何億というお金をかけてやることだろうと思います。

さらに、ここはまだ出発点ですが、ここから、いま投げたみなさんのボールがどんどん広がっていくことを考えると、千代田区の活性化にとって、何十億という投資効果のあることでしょう。別に金額で計る必要はないのですが、それほどのことだと、みなさん自信を持って次のステップに進んでほしいと思うのです。

たまたま昨日、さわやか福祉財団の理事長、堀田力さんとお会いしました。「これからの社会は、共同型の社会に確実に変わりますよ」と仰ってました。そのなかで、NPOや市民ボランティアをやる人たちが確実に増える、と言います。

その時に何が大切かと言ったら、自分たちが基本的に楽しいということが、先ず原点にあります。しかし、そうはいってもNPOとか、それだけの活動をやるようになりますと、相応の組織力とかが必要になってきます。そういう時に、今日いくつかの団体の方とお話しているなかで、少しずつ、みなさんそれぞれに差があるわけです。特に1年目の団体と卒業する団体の間では、当然あります。

その差とは何かといいますと、もちろん、異なる内容の活動ですから比べる必要もないのですが、目的がはっきりしているということはあると思います。それによって、後の活動が停滞するとかの差が出てくるのではないのでしょうか。無論、停滞も失敗もそれなりに僕はいいと思うのですが、長い目で見たときに、続いていくかどうかというのは大事なと思います。

目的とは、ある種のミッションだと考えますが、さらに目標があると思います。たとえば、1年でここまでやる、とか。それはあまり、高いところに設定しないで、わりと手の届くところに設定する。どうしても、こういう活動を継続していくためには必要だと思うのです。

みなさんも、その辺をもう一度確認してみたいかがでしょうか。自分自身がほんとうに楽しめるかどうか点検してみることが大事でしょう。

もう一つ、区の、地域とのネットワーク、区役所との連携も大分進んできたという印象を受けました。正直言って、第1回の5年前には、その点が非常に難しく、みなさん苦労したところ。行政の方も次第に理解して下さったようです。

渡辺部長もいらっしゃいますが、できれば、区の職員も一緒になってやるとか、あるいは区の職員をみなさんの活動に研修で派遣して参加してもらうとかして、より一層の相互理解を深めていくとよいのではないかと感じました。そのようなことを来年に向けて、われわれとしても提言していきたいと思いました。

もう1点は、みなさんのなかでかなり自分たちで開発したノウハウに、非常に優れたものがあります。これをもう少し磨くと、もっといろんなところで、他の人でも使えるという要素があるので、自分の団体だけで仕舞い込まないように、逆に他へも提案したり、磨きかけると、たとえば学校へプログラムをアピールすることができる。そうすれば、千代田から全国へ発信できるという気がします。きょうは聞いていて、そのレベルのものが、かなりの活動にあったと思います。

ですから、自分たちのやっている楽しい活動を、それをもっと外へ出して、さらに楽しめるようにしていくということ。これは千代田区でやっているからこそで、地域的な活動と、様々な企業でいろんなノウハウを持っている人たちが、一緒にやっているというのは、非常に水準が高いわけです。

僕は岩手県の県北でも、同じようなサポート事業を紹介してお手伝いしていますが、やはり、地域の中だけでの活動が普通です。どうしても、なかなか新しい発想とかへはジャンプできないものです。

ですから、そういう点をもう少し延ばすことを考えていただきたいと思います。

いずれにしても、きょうはお疲れさまでした。個々の活動については、心に残ったものも多々ありましたので、お話ししたいのですが、あまり時間もないようですので、それはまたの機会にいたしたいと思います。

それから、きょうこの発表会の運営をしてくださったサポーターズクラブのみなさん、ありがとうございました。

みなさん、最後までどうもご苦労さまでした。

みなさんの力を借りて楽しんだ

緒方 久子・副会長



私は、江戸開府400年記念事業の支援事業検討委員ということで、お手伝いしているなかで、このサポート事業というものが5年も続いているということを知りました。

その時に、まちづくりサポートと支援事業というのがどう結びつきをするのか、一般の方たちにとって、その線引きをするのは難しいのではないかと、いったん、まちづくりサポートは休もうという話まで出ました。しかし、せっかく継続してきたものを休むというのは残念だから、一緒に出来る方法はないのでしょうか?ということになったのです。

それで今回の形になり、みなさまと1年間、私も楽しませていただき、一緒にやれたことの幸せと充実感を、みなさま方のお力を借りて体験させていただいた感じです。私たちとしては、感謝に耐えない、頭の下がる思いであります。

講評と申せば、欠席された団体の方たちが活動なさったことの発表を聞けなかったのはとても残念でした。また、留年のグループや、たった1人になった高齢者とファッションの活動もぜひお仲間を増やして、次につなげていていただけたらと願っています。陰ながら応援したいと思います。

相互作用が活動の魅力

平岩 千代子・副会長



みなさま、きょうはお疲れさまでした。楽しませていただきました。私は、このサポート事業にかかわりまして5年目になります。私もめでたく今回で審査委員を卒業ということになります。

いままでの思い出も頭のなかを巡っておりますので、少しお話をさせていただきたいと思います。

私はこの活動がいつも楽しみでした。公開審査会、中間報告会、最終成果発表会があって、いろんな団体がここに集まってくる魅力をみなさん語られていましたが、それだけではなく、最初の公開審査会では考えられなかったようなネットワークが団体間でできていくことのおもしろさをすごく感じます。

ここに場があるということ。インキュベーションとしての相互作用が、作りたいと思っていてもなかなかできにくいものです。それができていくことが、千代田まちづくりサポートのおもしろさではないかと思っています。

NPOなどで幾つかお手伝いしているなかで、他でもこの活動の話をしますと、みんな「すごいね!」と言い、目を見張って下さいます。それは何かというと、やはり、一つ一つの団体が組み合わされて、新しいものが生まれていくことの魅力ではないかと思っています。

きょう、1年目の方たちに辛口のことをあえて申し上げましたが、それがきっかけになって、2年目に大化けし、3年目にもっと化ける。それですてきな活動になってくださるといいなという祈り、願いを込

めて応援している、と受け取っていただけたら、すごくうれしく思います。

事務局は、千代田区まちづくり推進公社という財団法人ですけれども、これを支えているお金というのは企業の方たちと個人会員のみなさまの浄財です。

それから、きょうの運営をになっているのが「さぼてん」であり、サポーターズクラブで、ここの仲間であり、OBである方たちが自分たちの大事にしたいものを、自分たちで支える仕組みも作っているというのが、2番目にすてきなことだと思っています。

私も審査委員という立場でなく、ぜひサポーターズクラブの一員として、この活動を応援していけたらいいなと思っております。私自身、この活動を通して、たくさん勉強させていただき、地域の活動を教えていただきました。そして多くの人とのネットワークができたことを心から感謝しています。どうもありがとうございました。

地道な活動見えて感動

饗庭 伸



本当にご苦労さまでした。私は、この会がいつも楽しくて、きょうは、このサポートでも初めてという、ちょっと暗い気持ちになった出来事もありましたが、全体としては楽しめました。

卒業されたグループ、本当におめでとうございました。

私は、来年も審査委員を仰せつかっておりますので、今年のグループが試行錯誤して、来年の1月には、どういうふうにプレゼンテーションしてくるのか、今から、すごく楽しみにしています。

私は、2年目くらいまでは、失敗していてもいいと思うのです。やはり、その失敗の過程がおもしろい。むしろ、おもしろく失敗する過程がすごく大事ななと思っているわけです。楽しく、かつ苦労して失敗することです。

堀井さんが「旧五十通り復興会」で、チラシを持って一軒一軒回ったという話は、すごく感動しました。そういうふうにコツコツやっていて、見えてくるものがきっとあるのだらうなと思いました。その時の姿がなんだか目に浮かんできます。

2年目以降も、そういう試行錯誤の過程を大事に組み立てていていただければと思います。ありがとうございました。

長い目で地域交流深めて

小林 武彦



みなさん、お疲れさまでした。コミュニケーションということで、地域との交流を深めていただきたいのはやまやまですが、地域の方でも受入れ態勢ができていところと、いないところと、いろいろでしょう。しかし、地元の人間としては、長い目で千代田区を見守っていただければと思います。今後とも、よろしく願いいたします。

原点に戻れば見えてくる

田畑 秀二



私も、みなさまのように、第1回から第3回までサポート助成を受けていた、「江都天下祭研究会神田倶楽部」を、いまでもやっております。先ほど、堀井さんが言われていたように、私たちも最初からうまくいっていたわけではないのです。先生方に「そんなので、できるの?」とか、さんざん言われました。

やはり、先ほど渡辺委員もいわれましたように、原点に戻って、何をやりたいのかを考えていくと、自ずと見えてきます。あれもやってみよう、これもやってみよう—と所懸命やっているうちに、成果として見えてくるものがわれわれにもありました。

いまも人的ネットワークがどんどん広がっております。神田倶楽部というところから、みなさんとの交流から生まれるもの、これがどんどんつながっていけば、みなさんの活動もますます有意義に、しかも千代田区内だけでなく、広がる場面ができるのではないかと思います。

少々、審査委員としての立場からだけではない発言をしましたが、一層みなさんの活動が発展して、よりみなさんのためになるようにと期待をしております。よろしくお願いします。

みんなでユニークさ育てて

鳥山 和茂



私は今回初めて審査委員になりましたが、第5回までくると、さすがにみなさんのレベルがアップしているに関心しました。しかし、もしゆとりがあるなら、むしろもっと訳の分からないグループがチャレンジできる場面も少し残しておいてほしい気がします。

みなさんがアドバイスするなり、手助けすることでその活動が可能になるならば、それも大事なことだと思います。整った形の活動だけでなく、何かが少し足りないけれど、これはいいなという活動も参加できるようなサポートであったなら、すてきだなと思いました。

みなさん、きょうはどうもご苦労さまでした。

活動の辛さを語り励みに

山崎 範子



私は隣の文京区で地域雑誌を作っているのが仕事です。そのご縁で、今年から審査委員をやらせていただいております。きょうの活動成果発表会も楽しいものでした。これにかかわらせていただいてから、文京区にもサポート事業、公開審査会があったらと思います。

話をしたり審査をしにここへ来るという

よりは、みなさんの成果を聞きに来て、こういう活動を同じまちの中でやっている人たちがいるということを知る。みなさんは、花を咲かせるのも、空きビルの研究も、まちづくりということで幅広くいろんなことをやります。私も地域で活動していると、人に言えないことや、楽しく始めたことなのに辛くなる、ということがあります。仲間がいたはずなのに、いつのまにかひとりになっていたりして、やらなきゃいけないような気になってしまう。そういう辛さを聞いてもらうことで、ここに来て、またなんとかやっていこうかと思えます。

ああいう人たちがいるのだ、ということで、励みにもなります。競争率は高くなりますが、みなさんも身近な人が、何かまちとかかわっていたりしたら、声をかけて、ぜひサポート事業に応募して下さるよう勤めてください。そういう宣伝活動も自分たちでやりたいと思っています。

千代田区らしさ見える

山本 坦



みなさま、お疲れさまでした。私はぜんぜん疲れておりません(笑)。

やはり、千代田区だなと思ったのは、最新のアーカイブあり、花あり、風あり、そこに遊ぶ子どもの風景があり、実に千代田区というのはパラエティーに富んだまちである。そのまちづくりのみなさまのアイデアというのは、非常にすばらしいと

思います。

今年は江戸開府400年で、記念の特別賞が出ましたが、ぜひ、このサポート事業を盛んにしていきたいと思えます。

審査委員の方も、私みたいな毛色の変った者がいてもよろしいかと思えますので、今後もよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

紆余曲折の楽しさ大事に

渡辺 滋



今回大変楽しませていただきましたし、感心することが多かったです。

お願いしたいことがあります。いろいろ活動してみても、うまくいかないことがあるかと思えます。その時に方向転換することも当然ありますし、なんとか成果を出したいと思うわけです。平岩委員はじめみなさんがおっしゃっていたと思いますが、

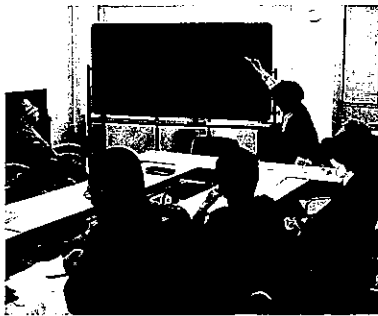
まちづくり活動の原点、最初に何をしたかったのか、そこにもう一度戻って考える。そして、みんなをも楽しませるけれど、自分も楽しむ。

そこで、ひとりではなく、いろんな人と相談しながら、仲間とやっていく。最初からネットワークをつくらうなどと思わなくていいと思うのです。結果としてネットワークができるのだと思います。来年もわいわい楽しみながらやってください。報告を楽しみにしています。

◆千代田まちづくりサポーターズクラブ(CSC)◆

CSCの活動

「サポーターズクラブ」は、「千代田まちづくりサポート事業」に参加した様々な市民グループや個人同士が横につながり、情報交流しながら、市民が主体となる千代田のまちづくりを活性化し、これをサポートしていこう、というものです。CSCでは、以下の活動を始めています。



▲定例会で議論するメンバー

①サポート事業に関わる方々の情報交流の場づくり

「サポート事業」のOBまたはCSCの活動に賛同する個人、グループ等の方を会員として、その相互交流、情報交換できる場づくりを進めています。現在、メーリングリストとホームページで情報交流のプラットフォームづくりを進めています。

また、定例会を開催して、フェースツーフェースで相互交流を図っています。

②サポート事業の支援活動

中間発表会や成果発表会への支援、企画・提案等について意見交換し、支援活動を行っています。これまでも発表会の進行や運営支援、発表会後の懇親会の開催などを行ってきました。

③その他プロジェクト

今後、CSCの活動の一環として、様々な市民活動グループ同士が交流し合える場づくりとして、ウォークショップを企画、開催しています。

CSCに参加するには

上記の趣意に賛同していただける方は、誰でもクラブの活動に参加することができます。会の連絡は基本的にメーリングリストで行っています。メーリングリストに登録することで参加の手続きは完了です。電子メールでは定例会のご案内ほか、各グループの活動情報、まちづくりに関係する情報やイベント情報を配信しています。

希望される方は、住所、氏名、電子メールアドレスを明記の上、事務局あてにメールをお送りください。参加は、個人単位でも、グループ単位でも結構です。電子メールを使えない方には、年間5回程度、活動報告を郵送で送ることも可能です。参加申込、お問い合わせは以下までお願い致します。

CSC事務局

- ホームページ <http://members.jcom.home.ne.jp/mati-club/>
- 事務局宛 E-mail: csc-jimu@smi-z1.infoseek.co.jp
- 郵便宛先 102-0074 千代田区九段南1-6-17 千代田会館2階
(財)千代田区街づくり推進公社気付
「千代田まちづくりサポーターズクラブ事務局」宛
- 電話 090-2410-2911(三原)

「江戸開府400年記念賞」

第5回「千代田まちづくりサポート」は、千代田区江戸開府400年記念支援事業と共同で開催されました。そこで、今回の活動期間中に、地域にとけ込んだ活動、他グループと協力し、活動の幅を広げたり、他団体の参考となるようなグループなどに対して「江戸開府400年記念賞」を設け、さらなる飛躍とサポート事業の活性化につながることを期待して、10人の審査委員と各グループの投票で高得点だった3グループに賞を贈りました。

(財)千代田区街づくり推進公社賛助会員一覧(法人90社・個人64名 計154)

2003年12月1日現在

※この事業は下記の法人会員と個人会員の会費で運営されています

賛助会員名簿(法人)

〈保険関係〉

あいおい損害保険(株)
太陽生命保険(株)
日本興亜損害保険(株)

〈金融関係〉

興産信用金庫
太陽信用金庫神田支店
(株)東京都民銀行神田支店
(株)東京三菱銀行
(株)東日本銀行飯田橋支店
みずほ信託銀行(株)
(株)りそな銀行
(株)三井住友銀行千代田営業部

〈建築・土木関係〉

大木建設(株)
(株)大林組東京本社
大林道路(株)関東支店
鹿島建設(株)東京支店
鹿島道路(株)
(株)久保工
(株)熊合組首都圏支店
五洋建設(株)
清水建設(株)
(株)銭高組東京支社
大木建設(株)
大成建設(株)
高砂熱学工業(株)東京本店
(株)竹中工務店
中央建設(株)
鉄建建設(株)
東京舗装工業(株)
東洋建設(株)建築事業本部
常磐工業(株)

戸田建設(株)東京支店
飛鳥建設(株)関東土木支店
飛鳥道路(株)関東支店
長野建設(株)東京本社
(株)ナカノコーポレーション
日東みらい建設(株)
(株)間組東京支店
前田建設工業(株)
真柄建設(株)東京支店
三井建設(株)

〈不動産関係〉

協永不動産(株)
(株)共立エステート
住友不動産(株)
大日本企業(株)
三井不動産(株)
三菱地所(株)
森トラスト(株)
安田不動産(株)

〈建設設計〉

(株)アーバン・ウイング
(株)アーバン・ラフィックエンジニアリング
(株)オール・アイ・イー
(株)アイテック計画
(株)ADプロジェクト
エヌティティ都市開発(株)
(株)エルイー創造研究所
NPO都市住宅とまちづくり研究会
(株)関東設計
(株)楠山設計
太平工業(株)東京支店
(株)都市環境計画研究所
日本橋興業(株)
パシフィックコンサルタンツ(株)
(株)日立建設設計

(株)ポリテック・エイディティ
(株)松田平田設計
(株)増岡組東京支店
マト設計・コンサル(株)
(株)ラウム計画設計研究所

〈ビル管理〉

鹿島建物総合管理(株)
東京美化(株)
本州ビル・メンテナンス(株)

〈広告代理業〉

(株)イサミヤ

〈緑花・環境関係〉

日産緑化(株)

〈コンサルタント〉

(株)アフタヌーンソサエティ
(株)新都市企画
(株)都市デザインシステム
(株)エコプラン

〈駐車場管理〉

総合パーキング建設(株)東京支店

〈電機・通信関係〉

三洋電機(株)

〈その他〉

秋葉原商店街振興組合
秋葉原中央通商店街振興組合
秋葉原西口商店街振興組合
新日本監査法人
神保町一丁目南部地区市街地再開発組合
東京高速道路(株)
(社)東京都建築士事務所協会

(株)東京読売サービス
フィールファイン(株)
(株)メガ
ヨシモトボール(株)

賛助会員名簿(個人)

青木 孝次
安孫子 政夫
伊東 敏雄
犬伏 真
今堀 信明
扇谷 和栄
角地 登志子
加藤 武夫
木村 進一
小山 政士
佐々木 明美
佐藤 章子
須藤 昭雄
瀬川 昌輝
寺沢 譲
東宮 哲哉
戸田 豊重
中尾 嘉男
二木 憲一
早川 平典
堀部 剛正
松谷 優子
森田 克弥
宮寺 孝臣
三輪 瑛子
山内 秀男
山崎 泰廣
脇屋 博幸
渡邊 和
鈴木 勉
他34名